★ヒューマンコミュニケーション基礎研究会（HCS）

専門委員長　中野有紀子　副委員長　渡邊伸行・井上智雄

幹事　林　勇吾・小森政嗣・吉田　悠　幹事補佐　高嶋和毅・藤原　健・寺田和憲・木村　敦

日時　1 月 26 日（金）　10：30～17：30

27 日（土）　9：30～16：10

会場　第一工業大学（霧島市国分中央 1-10-2．JR 国分駅東口より徒歩約 10 分．http://www.daiichi-koudai.ac.jp/guide/access.html　中茂睦裕・松田昌史）

議題　コミュニケーションの心理とライフステージ，及び一般

26 日午前　認知とライフステージ

1. 乳児期における自己顔への感受性―合成顔を用いた検討―　○新田博司・橋彌和秀（九大）
2. 文化的自己観が目と口からの感情認識に及ぼす影響　池田慎之介（東大）
3. 2 歳児におけるひらがな文字音知識―眼球運動測定を用いた検討―
   ○樋口大樹（NTT／産総研）・奥村優子・小林哲生（NTT）
4. 感情ボキャブラリーは小学生の向社会性と攻撃性に関係するのか？―文字なし絵本を用いた感情理解の分析―
   ○渡邊直美・小林哲生（NTT）

26 日午後　メディアと発達（12：50～）

5. トピック分類を用いた絵本の類似検索に関する検討　○朴　炳宣・松下光範（関西大）・服部正嗣（NTT）
6. 絵本の読み聞かせ時間推定手法の検討　○宮本華奈・松下光範（関西大）・服部正嗣（NTT）
7. 幼児の語彙獲得と絵本コーパスの関係を探る―乳幼児向け絵本の場合―
   ○藤田早苗・小林哲生・奥村優子・服部正嗣（NTT）
8. 日本語版絵本知識測定尺度の作成とその妥当性の検証
   ○大竹裕香（九大）・奥村優子（NTT）・山田祐樹（九大）・小林哲生（NTT）
9. 子どもの鼻部皮膚温度とストレス状態の推定　○鈴木窓香（東京理科大）・大槻知明（慶大）

言語と発達

10. 日本語の補文理解と心の理論の発達　○鈴木孝明（京都産大）・三浦優生（愛媛大）・小林哲生（NTT）
11. 心的態度を表す機能語の段階的な獲得の計算モデル
    ○金尻良介・岡　夏樹・深田　智・田中一晶（京都工繊大）
12. ニューラルネットワークと強化学習による幼児語彙獲得のモデル化　○野口　輝・南　泰浩（電通大）
13. 幼児の語彙発達における語彙共通性指数の提案　○曹　妍・南　泰浩（電通大）・奥村優子・小林哲生（NTT）
14. 多言語における幼児語彙獲得時期の男女間相関の比較
    ○藤田浩貴・南　泰浩（電通大）・小林哲生・奥村優子（NTT）

気持ち悪さの認知科学

15. 〔招待講演〕 気持ち悪さを科学する―不審なものを回避する心のメカニズム―
    佐々木恭志郎（早大／九大／学振）

27 日午前　メディア・コミュニケーション

1. 大学生の Twitter 使用における社会的比較と友人関係満足度との関係　○中田周育・叶　少瑜（筑波大）
2. 大学生のソーシャルメディア使用と自己効力感との関係―Twitter と Facebook の比較―
   ○叶　少瑜・歳森　敦（筑波大）・堀田龍也（東北大）
3. インターネットによる育児情報接触が育児期の女性の感情に及ぼす影響　○松井咲子・中山満子（奈良女子大）
4. Web 上での情報探索と態度変容―我々はどのような情報を探すのか―　中山満子（奈良女子大）
5. スマートフォンによるインターネット依存傾向尺度の作成（２）―実測値との関連による妥当性検証―
   ○黒川雅幸（愛知教大）・本庄　勝（KDDI 総合研究所）・三島浩路（中部大）

27 日午後　コミュニケーションの理解（12：40～）

6. Web アクセスログを用いたパーソナリティの推定　○小林亮博・南川敦宣・小野智弘（KDDI）
7. 日本の少子高齢化を人口過密で説明する―統計データを用いた人口密度と生活史戦略の相関分析―
   松田昌史（NTT）
8. 非母語話者と母語話者の会話における母語話者テキスト入力の影響　○宋　暁宇・塙　裕美・井上智雄（筑波大）
9. 日本人はどのようにして心の理論課題に正答するのか　東山　薫（龍谷大）
10. 文章評定における名前による権威づけ効果　○村上太郎・酒匂由希（九州女子大）

教育とライフステージ

11. 教育・研究水準の判定結果に影響する要因の検討―自己評価と評価結果の関係を中心に―
    ○渋井　進（学位授与機構）・坂口菊恵（東大）
12. リトミックにおける子どもの集団活動からみる主体性と社会性の発達

○市川　淳（京都工繊大）・藤井慶輔（理研）・岡　夏樹（京都工繊大）・長井隆行（電通大）・大森隆司（玉川大）

13. 幼稚園児の手の巧緻性を高める教具の提案
○西ノ平志子（佐賀大）・廣中栄雄（曽野幼稚園）・大島千佳・中山功一（佐賀大）

14. Cognitive Processing Requiring Attentional Resources—Effects of Note-Taking on Self Regulated Learning—
○Anis Urrehman・Tetsuharu Kurakake（NIT, Kagoshima College）・Sakuichi Ohtsuka（Kagoshima Univ.）

15. 主観評価と客観評価を用いた小学生のプログラミング学習到達度の検討　○遠山紗矢香・竹内勇剛（静岡大）

◆日本心理学会；幼児言語発達研究会共催．日本社会心理学会後援

☆HCS 研究会今後の予定　〔　〕内発表申込締切日

3 月 13 日（火），14 日（水）　東北大電通研片平キャンパス〔1 月 15 日（月）〕テーマ：豊かなコミュニケーションを実現する理論と技術及び一般

【問合先】

HCS 研究会幹事団

E-mail：hcs-kanji@mail.ieice.org

◎最新情報は，HCS 研究会ホームページを御覧下さい．

http://www.ieice.org/~hcs/